

- 『勇気ある子ども』（全体目標）
- 「自分で考える子」（知）
 - 「思いやりのある子」（徳）
 - 「たくましい子」（体）

古小だより

子どもの問題解決力を高める

校長 丸岡 哲也

21日（木）、二学期を迎えました。朝の会から1時間目の始まりにかけての様子を見てみると、久しぶりに友達と会える喜びがあふれていました。夏休み中、子どもたちが元気に登校できる環境を整えていただき、ありがとうございます。

二学期早々、始業式で、学習や学びについてお話をしました。授業では、自分で考えようとする態度や考える力が付いてきています。その先に、「自分で、自分たちで解決する、考えをまとめるところまで行こう！」という意識をもって、学習を進めてほしい。考えのぶつかり合いがあってもいい。教師は、子どもの多様な解決やひとまずの解決をみとり、

- ① 順序立てて整理する
- ② 別の視点を与える
- ③ 根拠の明確さを求める
- ④ 揺さぶる

などの支援をして、子どもの問題解決力を高めていく授業づくりに努めます。

子どもの問題解決力～子どもの思考の流れ～

自分の考えを話す【伝える】

友だちの考えを聞く【受け取る】



メディアとのつきあい方⑤

5 長時間視聴が子どもにもたらすもの

(3) 視力の低下

メディアを長時間近くで視聴することは、近視の原因となります。特に、スマートフォンやタブレットを30cm以下で見ると近視が進行することが分かっています。近視には、目を休めて遠くを見ると治っていく仮性近視もありますが、目が成長して眼軸が長くなると一生元に戻らない近視になります。小学校低学年から近視が始まると、将来強い近視になり、失明につながる緑内障や網膜剥離のリスクが高まります。

(4) メディア依存

人格形成期にメディア依存に陥り、そのまま成長して大人になると、依存症になりやすい人格が形成され、治療が困難になります。依存症に陥る背景として、幼少時に家庭環境に恵まれなかったり、虐待を受けたりした方が多いと確認されています。依存症は、安心して人に依存できないために自分の生きづらさをごまかしている状態だといえます。メディアの問題を抱えている子どもは、人と遊ぶ楽しみを経験する機会が少ないために、人との関係の中で安心感を得にくくなり、人とのやり取りを介さないメディアを見ることで、安心感を得ようとします。その結果、メディアに依存するようになります。

出典：1人1台時代のメディアのつきあい方ガイドブック
(令和6年2月宮城県教育委員会)

